

まちづくり・地域興し論

第2講 2009年 10月20日

観光振興のはじまり



積極化する観光振興への取り組み

- **2000年10月** 経済団体連合会(日本)「二十一世紀のわが国の観光の在り方に関する提言」
- **2005年6月** 「国際観光立国に関する提言」を公表。
- **2002年2月** 国会施政方針演説において観光振興に言及(歴代総理初)海外からの旅行者()の増大と、これを通じた地域の活性化を謳った。
- **2003年1月** 小泉総理「訪日外国人旅行者倍増()人計画(目標年次2010年)」
- **2003年4月** 観光立国相談会の報告書「住んで良し訪れて良しの国づくり」が公表された。
- **2004年11月** 観光立国推進戦略会議報告書「国際協力のある観光立国の推進」の公表。
- **2007年1月** 「観光立国基本法」(1963年の観光基本法を改正)
 - ①活力に満ちた地域社会実現
 - ②国際相互理解の促進
 - ③国民観光の促進
 - ④国・地方公共団体・事業者・住民による相互連携。
 - わが国初の「 」がつく法律
- **2007年6月** 「観光立国推進基本計画」5年間の計画期間
- **2007年6月** 安部内閣のもとで観光立国相談会の報告書「地域が輝く『美しい国日本』の観光立国戦略」
- **2008年** VIS



Yokoso! Japan Weeks 2006 1/20~2/20



Yokoso! Japan Weeks 2006 1/20~2/20

2. 観光振興 4つの背景

- **大交流時代の到来**

外国人旅行者受け入れ数(8億628万人・前年比5%増)(WTO)統計。中国などのアジア諸国が一大送り出し国。

- **地方分権化での地域経済の再生と活性化**

今までの地域振興策は公共事業や工場誘致によって地域の経済を活性化し、雇用確保すること(人口の維持・増加策に着目した地域振興策)。

しかし、政府の財政難から来る公共事業の疲弊や人口減少・高齢化を考えると定住人口だけでなく 人口の拡大に真剣と取り組む必要がある。

- **国内旅行の低迷**

- バブル経済崩壊後の 所得減少や将来不安による個人消費の抑制
- 相対的に割安な海外旅行へのシフト
- 団体旅行からグループ旅行へ

- **観光の経済の 効果**

観光は極めて裾野の広い産業。地域活性化効果。

2. 観光振興4つの背景 大交流時代の到来



① アジアの一大マーケット化（WTO）

➤ 世界の観光市場－外国人旅行者受け入れ数

- 1960 69,320,000 (6,932万人)
- 2005 806,280,000 (8億628万人)
- 2010 1,006,400,000
- 2020 1,561,100,000

➤ アジア・太平洋地域の外国人旅行者受け入れ数

- 2005 155,430,000 (1億5,543万人)
- 2010 205,800,000
- 2020 416,000,000



2. 観光振興4つの背景

① 大交流時代の到来

高まる中国人の海外旅行熱



年	中国の海外旅行者数	伸び率 (%)	うち香港・マカオ
1997 (解放時)	8,180,000		
2001	12,130,000	15.9	5,530,000
2002	16,600,000	36.8	8,280,000
2003	20,220,000	21.8	9,900,000
2004	28,850,000	42.7	14,440,000
2005	31,030,000	7.5	14,910,000



訪日旅行者数の推移

	2002	2003	2004	2005	2006
訪日旅行者数(万人)	45.2	44.9	61.6	65.3	81.2
構成比(%)	8.6	8.6	10.0	9.7	11.1

2. 観光振興4つの背景

①大交流時代の到来

最大の誘客ターゲットは東アジア

- 国別訪日外国人旅行者数 (国土交通省『観光白書』2006年版)

順位	国・地域	訪日旅行者数(万人)	構成比(%)
1	韓国	212	28.9
2	台湾	131	17.8
3	アメリカ	82	11.1
4	中国	81	11.1
5	香港	35	4.0
6	イギリス	22	3.0
7	オーストラリア	20	2.7
8	カナダ	16	2.1
9	タイ	13	1.7
10	フランス	12	1.6
合計	(その他を含む)	733	100.0

東アジア
地域で
62.6%
アジア全
体で
71.5%

2005

中国人向けビザ発
行地域の拡大

2006年

韓国人向け短期
滞在ビザの免除
措置

2007年

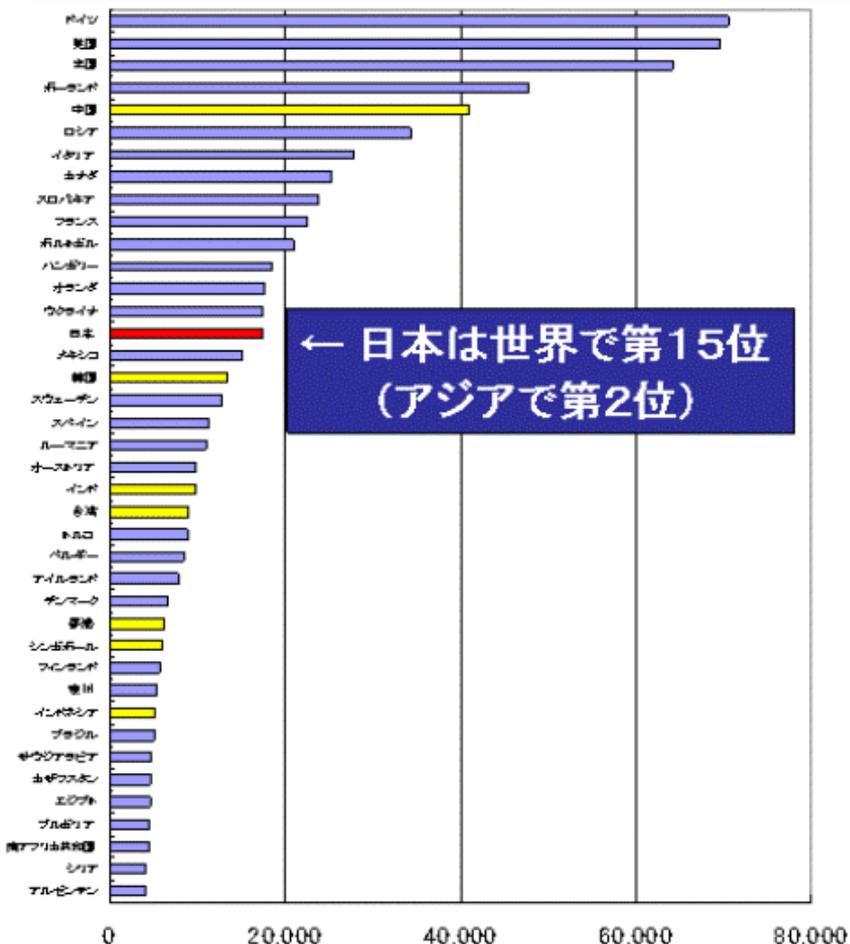
アジア・ゲート
ウェイ構想
羽田空港

3. 低い日本の国際観光競争力（観光庁統計より）

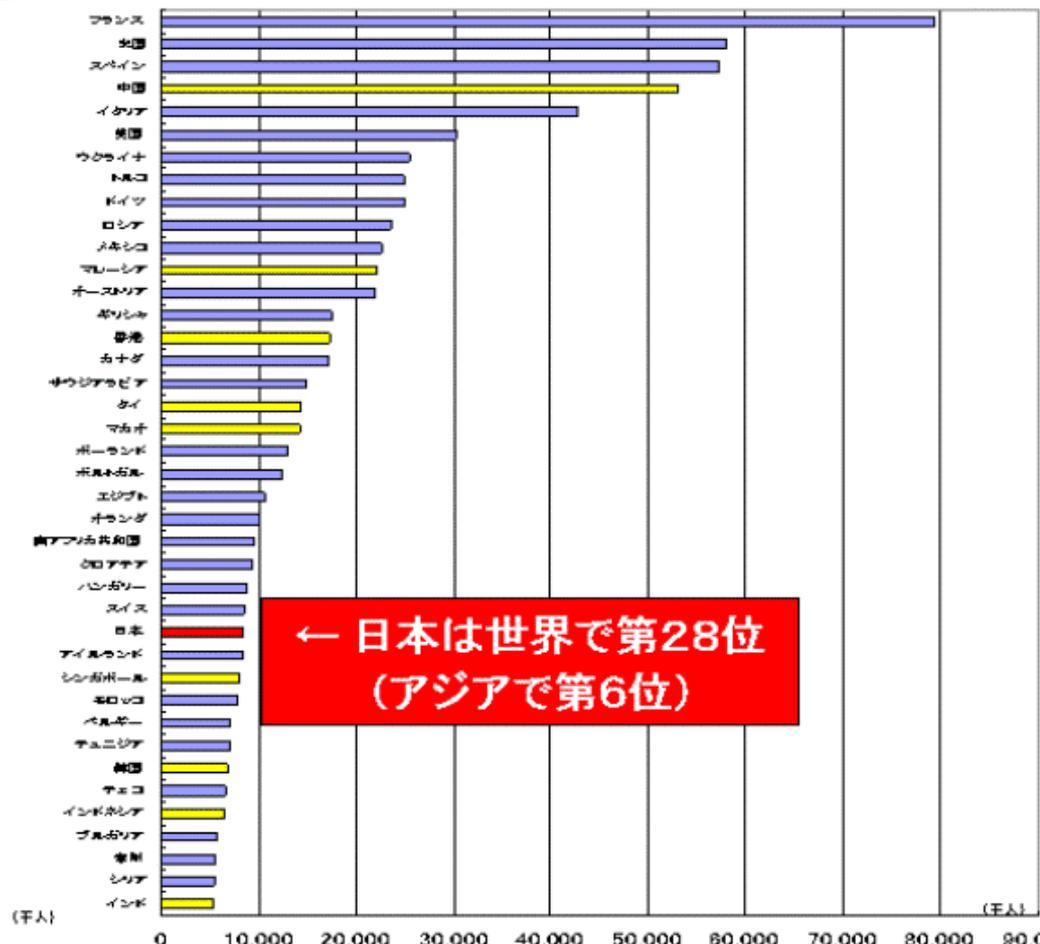
主要国における出入国旅行者数国際ランキング

我が国は出国旅行者数(アウトバウンド)に比べて入国旅行者数(インバウンド)が少ない

出国旅行者数国際ランキング(2007年)
(アウトバウンド)



外国人旅行者受入数国際ランキング(2008年)
(インバウンド)



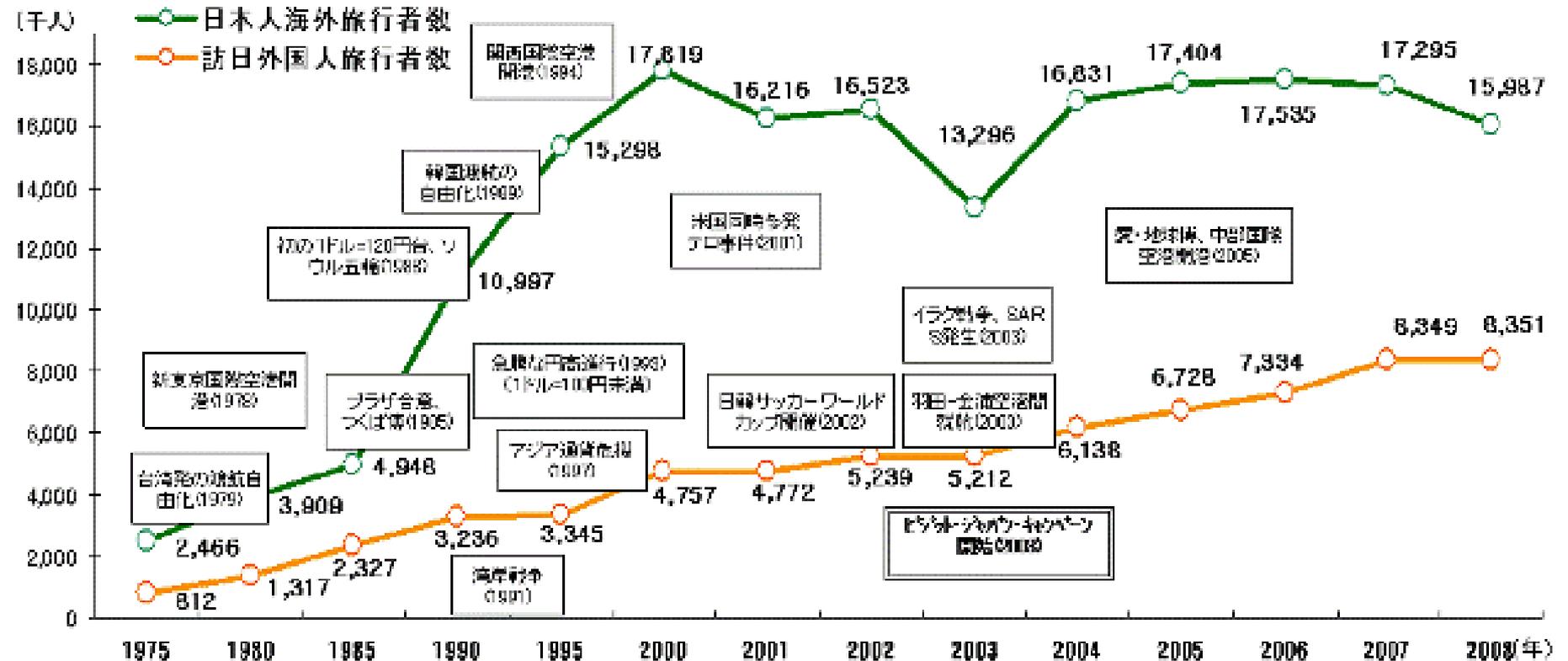
※エジプトについては、2006年の数字を掲載。

出典：日本政府観光局(JNTO) 日本の国際観光統計(2008年)

※ギリシャ、ポルトガル、エジプト、アイルランド、シンガポールについては、2007年の数字を掲載。

3. 低い日本の国際観光競争力

訪日外国人旅行者数及び日本人海外旅行者数の推移



資料：法務省資料に基づき国土交通省作成資料による

3. 低い日本の国際観光競争力 国際旅行収支の状況

	順位	国名	国際旅行収支 (億ドル)
赤字国	1	ドイツ	△440
	2	イギリス	△292
	3	日本	△251 (2.51兆円)

	順位	国名	国際旅行収支 (億ドル)
黒字国	1	スペイン	328
	2	イタリア	130
	3	アメリカ	125

3. 低い日本の国際観光競争力

表12 国際旅行収入ランキング(2005年)

順位	国名	国際旅行収入[億ドル]
1	アメリカ	817
2	スペイン	479
3	フランス	423
4	イタリア	354
5	イギリス	304
6	中国	293
7	ドイツ	292
8	トルコ	182
9	オーストリア	155
10	オーストラリア	149
13	日本	124 (1.2兆円)

本日のグループ課題

1. 大交流時代の到来

- 羽田が国際化すると、どのような利点がありますか？ 2つ、あげてください。また、どのような問題がおこると考えられますか。一つあげてください。

2. 観光振興の本質は魅力づくり

- 外国人旅行者誘致の機運が広がっている。しかし、広く観光振興の視点からいえば、外国人旅行者誘致は、あくまで観光振興のための一つ的手段に過ぎず、決して目的ではない。国際化の進展で、国内外を問わず、ボーダーレス化が進んでいる。このため、日本国内の観光地は、今や海外の一流観光地などと正面から競合する時代を迎えている。(Give some examples of which tourist destination of our country and that of foreign countries are competing each other? Give some examples of such destinations and explain why such destinations are competing with each other?)

2. 観光振興4つの背景

地方分権化での地域経済の再生と活性化